

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

在宅医として、さまざまな家族のドラマに立ち会います。百の死があれば、百通りのドラマがあります。やはり子が親よりも先に逝く「逆縁」の別離に立ち会うときは、本当に辛いです。

歌手、北島三郎さんの次男で、歌詞・作曲家の大野誠さんが、東京都内の自宅で亡くなりました。兄によって発見されたのは3月3日のこと。死因は心不全。51歳の若さでした。一人暮らしのため死後8日が経過していたといいます。

「大事な、大好きな、かわいい、わが子が先に旅立ってしまったという…そんな辛さがあります」

46 大野誠



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京大学医学部卒業後、大阪府立第二内科入局。1995年、京都府立総合医療センターで「人々を救う」をテーマに「痛くない死に方」を開業。外来診療まで在宅医療を目指す。近著「楽のやめどき」は、関西国際大学客員教授。

3月7日に記者会見を開いた北島さん。いつもの元気溌刺なオーラはなく、憔悴しきった表情で声を絞り出す一人の父親の姿でした。

死因は心不全ということ、心臓にトラブルがあったのかという記者の質問に対しては「全く感じなかった。彼はもし、それだとしたら、俺に隠していた。

た。昔から思いのままに一人で作るのが好きでしたから」と答えていました。大野さんの死に関してはいくつかのメディアからコメントを求められました。昨年末に出版した拙著『男の孤独死』（ブツクマン社）が話題になっているからでしょう。

孤独死の男女比は8対2で、男性が圧倒的に多いのです。他者とのコミュニケーションの取り方の違いがあるかもしれませぬ。男性は一人でも何かをするのが好き。おまけに男性は医者嫌が多いことにも起因しています。

実は、東京都内での在宅での死亡は6割が警察の検視が入ります。家族に看取られずに死亡し、時間が経過すると、事件性の有無を調べなければならぬのです。

こうした実態を知ってほしくて先の本を書いたのですが、興味を持ってくれるのはたいがい女性。父や兄弟に読ませたいと買われるようです。いくつになっても男は死の現実と向き合おうのが怖い。夢だけ追って生きていたいのでしょう。

とはいうものの、死ぬときは誰しも一人。どんなに仲の良い人がいても、一緒に逝けませぬ。ですから「孤独死はかわいそう」と決めつけるのも、ちょっと違うと思います。最後まで自由に好きなことをやって突然死した結果が孤独死ともいえませぬ。私自身も孤独死しそうな予感がしています。

大野さんは、未発表の楽曲を多く残していたそうです。「素晴らしいセンスの持ち主。息子であって、よき私の相手でもあった」と語った北島さん。悲しみは形見の音楽が癒やしていくのでしょうか。大野さんの曲をサブちゃんが元気に歌ってくれる日を心待ちにしています。

夢追った男の孤独死